

堺旧港における取組の方向性について（親水護岸後背地等の活用）

1 堺旧港の現状・ポテンシャル

優れた広域アクセス

- 大阪都心部と関空を結ぶ交通軸上に位置し、神戸や奈良とも交通利便性が高い
- “なにわ筋線”の開業により、新大阪駅とのアクセス性が向上



堺都心の貴重な水辺

- 市街地の中にあり、鉄道駅（南海堺駅）の徒歩圏内にあるウォーターフロント
- 親水護岸が整備された美しい景観
- 堺環濠エリアにつながる水辺



豊かな歴史・文化

- 堺は海から発展してきた都市であり、堺の原点ともいえる場所
- 江戸時代に形作られた港や町割りが現在の堺の骨格になっている



- 堺旧港南側エリアでは、大浜北町市有地活用事業が進行中 **令和7年（2025年）春に施設オープン予定**
- 宿泊、飲食等の新たな都市機能の創出により、堺旧港周辺の拠点性が向上し、新たな人の流れが期待される



2 堺旧港周辺の将来イメージ

堺市基本計画2025及び堺都心未来創造ビジョン等の各種計画において、堺の新たな都市魅力の源泉となるウォーターフロントとして、堺駅・堺旧港エリアの将来イメージを掲げています。

堺都心未来創造ビジョン（R5.5公表）より抜粋



“Mizube” Re-Design 堺の歴史を紡いできた水辺から新たな魅力が生まれ国内外から人々が集うエリアへ

- 関空・国土軸を結ぶ関西の広域的なアクセスの中心、堺の玄関口として多様な交流を創出
- 堺旧港の海辺や環濠につながる水辺、豊かな歴史・文化等を活かした居心地の良い交流空間を形成

◆堺グランドデザイン2040

- 関空、国土軸を結ぶ関西の広域的なアクセスの中心、玄関口として多様な交流を創出
- ウォーターフロントをダイナミックに活かした、心地よいアミューズメントハーバーへ

◆堺市基本計画2025

- 【堺旧港周辺の親水空間を活かした魅力創出】
- 海辺の特性を活かし、居心地の良い魅力的な空間とするため、低未利用地の有効活用などに取り組み、賑わい拠点の形成を図る。

◆大阪広域ベイエリアまちづくり

- 沿岸市町の地域資源の魅力を高め、連携することでベイエリア全体の魅力向上につなげる
- 大阪広域ベイエリアのリーディング事業として「堺駅・堺旧港周辺の活性化」を位置づけ

◆堺都心未来創造ビジョン

- 多様な人が交流し、企業が集まる、堺の成長をけん引する魅力的な堺都心部
- 将来にわたって「成長」する堺を実現するために、未来を見据えて常に挑戦し続け、強力な都市ブランドを有する魅力と活力ある都市

3 交流空間創出に向けた社会実験

将来イメージの実現に向けて、堺旧港親水護岸をレクリエーションの場として実験的に開放し、美しく整備された親水護岸や開放的な海辺を活かした交流空間の創出に向けた社会実験を実施（令和3年度から）

<社会実験実施の背景>

「堺都心未来創造ビジョンより」抜粋

- ✓ 様々な分野で進む技術革新を背景に、生活スタイルや経済システムが急激に変化
- ✓ 長期計画ではなく「ビジョンと目標」を公民で共有し、できることから素早く手掛ける
- ✓ 環境の変化に対応しながら、段階的に取組を積み重ねていくアプローチでプロジェクトを推進
- ✓ その第一歩として、公共空間を中心とした人々の活動、交流、滞在を促す空間形成を進める

- ポテンシャル
- ◆都心の鉄道駅から徒歩圏内
 - ◆美しく整備され開放的な海辺
- 課題
- ◆幹線道路や鉄道による市街地の分断
 - ◆エリアの認知度が低い
 - ◆日常的な利用はあまり多くはない

<社会実験でのアンケート結果>

▶エリアの可能性・価値の見える化・発信

- 堺旧港に対するイメージが高い割合でプラスに転じ、9割の方がまた訪れたいと回答
- 堺旧港の印象は「海辺景観が美しい」や「憩い・落ち着ける空間」等と評価

▶民間の事業実現可能性

- 市場性は悪いという厳しい評価が多いものの、良いという評価もある
- 民間投資を呼び込むためには、継続的な魅力発信が必要

▶今後の活性化・機能導入（どんな場所になれば良いか）

- 家族や友人とくつろげる場所
- 食事、カフェなどの施設がある場所
- 家族で楽しめる場所
- 色々なイベントのある場所 等



ファニチャー設置の様子



音楽ライブ実施の様子



ワークショップ実施の様子

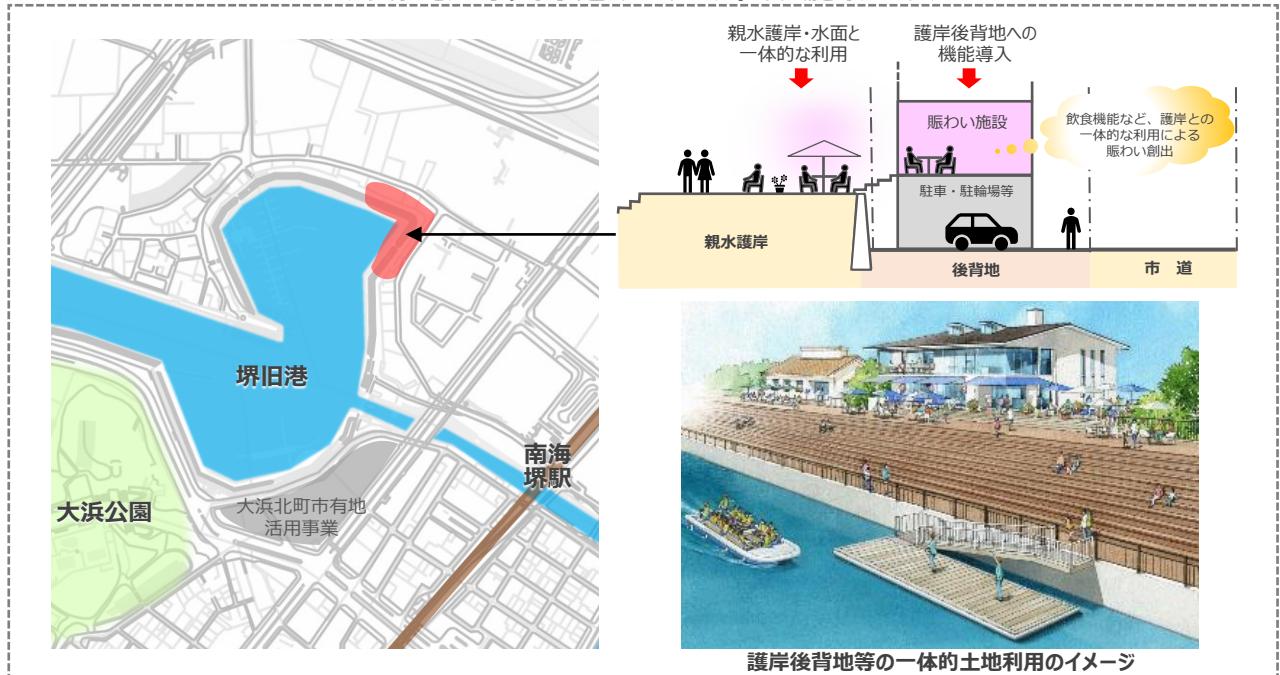


2023年実施時のフライヤー

4 取組の方向性

- 更なるエリア価値・魅力の向上を図るため、公有地等の土地利用を図り、親水護岸等との一体的な利用により、海辺の特性を活かした交流空間の創出や都市機能の導入等 ⇒ **“変化を先導する水辺”プロジェクトの推進**
- 魅力ある交流空間創出に向け、民間事業者の創意工夫や資金・ノウハウを最大限に活用 ⇒ **民間活力を積極的に導入**
- 公有地での使用料等を財源とし、エリアの価値・魅力を持続的に発展 ⇒ **将来のエリアマネジメントへつなぐ**

<“変化を先導する水辺”プロジェクトの実施イメージ>



護岸後背地等の一体的土地利用のイメージ